

教 育 長 様

代表者 校園名：大阪市立本田小学校

公印

校園長名：錢本 三千宏

電話：6581-1531 F A X：6581-3194

申請者校園名：大阪市立本田小学校

職名・名前：首席教諭 流田 賢一

電話：6581-1531 F A X：6581-3194

代表者校園 事務職員名：大谷 由香

## 平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

## 1 研究コース：

個人研究コース ・ グループ研究Aコース ・ グループ研究Bコース

継続研究： 繼續研究（2年目・3年目・4年目）

## 2 研究テーマ

## 社会で学び続ける資質・能力を育成する国語科の授業のあり方

## ◆ 研究内容のキーワード：

国語科 児童主体 協働学習 アクティブラーニング 学習意欲向上 コミュニケーション能力  
 ICT を活用 指導の系統性 教師の指導力向上 新学習指導要領 資質・能力 学力向上

## 3 研究目的：

- 新学習指導要領でめざす児童の育成
- カリキュラムマネージメントと学習評価の充実
- 汎用的能力を身につけ、社会で活用できる児童の育成
- 指導力を向上させ、アクティブラーニングの視点をいかした授業の方法
- ICT を活用した授業（情報活用能力の育成）
- 教科の本質をとらえた授業づくり研究会を定期的に開催
- 先進的研究校から講師を招聘し、公開授業・講演会を企画・運営し、大阪市全体へ拡大

## 4 研究内容：

社会が大きく変化している中、新学習指導要領が改訂されようとしている。情報化社会・グローバル化社会の中で生き抜く力を持つために必要となる力を「教育課程について、「何を知っているか」という知識の内容を体系的に示した計画にとどまらず、「それを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」までを視野に入れたものとして議論する」（教育課程企画部会「論点整理」）とある。整理すると以下のようなになる。  
 ①何を知っているか（個別の知識・技能）  
 ②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）  
 ③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（主体的・多様性・協働性、学びに向かう力、人間性等）  
 本研究では、この実現のために2点について重点的に行う。  
 ①どのように学ぶか（アクティブラーニングの視点からの授業改善）  
 ②カリキュラムマネージメント・学習評価の充実である。この2点が充実することにより、①②③が単独ではなく、総合的に向上することをめざす。

学力向上の必要性は周知の事実である。だが、それのみを目的とした授業はアクティブラーニングではなく、児童の学習意欲向上にも繋がらない。知識・技能を向上させるためだけの授業づくりではなく、資質・能力を育てることを目標としながら、結果的に知識・技能をも向上させる授業づくりが新学習指導要領のめざす授業である。そのため、アクティブラーニングの視点をいかした授業改善をする研究会を実施し、教師の指導力向上を図る。授業では、言語活動を重視しコミュニケーションの欲求が高まる必然性を授業に位置づけ主体的・協働的に学ぶ授業づくりを行う。児童には、粘り強く学ぶ力、自ら課題を発見する力、試行錯誤する力、コミュニケーション能力という汎用的能力を育む。本校は、ICT 先進的研究校としてタブレット・書画カメラ・電子黒板などのハード面を整備していただき、実践研究を積み重ねてきた。情報化社会の中で、ICT の活用は必要不可欠である。授業の中で、道具のように使い、考えを整理・発表するためのツールとして活用するための授業づくりをする。

今までの授業から、新学習指導要領で重視している資質・能力の育成のために人間性と学力を共に育成できるようにする。従来の試験で図ることができるものは、①何を知っているか（個別の知識・技能）である。そのため、②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）の評価はパフォーマンス評価やポートフォリオ評価の活用について研究する。③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（主体的・多様性・協働性、学びに向かう力、人間性等）の評価は、児童に育成したい力を児童・保護者にアンケート調査し、インタビューによる検証を加える。本校の協働研究者や、研究会に参加した教員にもアンケート調査し、児童・保護者・協働研究者からの三角測定（トライアンギュレーション）による検証を実施する。

先進的研究校に視察に行き、共同で研究を進める。教科の本質をとらえた授業づくりや資質・能力の育成について研究会を開く。先進的研究校から講師を招聘し、研究会を開催する。本研究が新学習指導要領に実施に向けて、大阪市のスタンダードモデルとなり、全市へ広げていく。

## 5 活動計画 :

- ◇ 6月 1日 児童・保護者にアンケート実施、インタビュー調査（研究前の実態把握）
- ◇ 6月 10日 CRT検査（国語科の学力実態調査）
- ☆◇ 6月 27日 公開研究授業・先進的研究校から講師招聘（研究の提案）、参観者にアンケート実施
- ☆ 7月 15日 1学期の取り組み報告・国語授業づくり研究会
- ★ 8月 2日 3日 協働研究者と国語研修合宿（1学期の取り組み報告・2学期以降の研究を整理）
- ★ 8月 4日 5日 全国国語授業研究大会（先進的研究校視察）
- ☆ 8月 29日 2学期の教材研究会（協働研究者と授業の視点を確認し、教材研究）
- ☆ 9月 2日～6日 イギリス国際学会参加（取り組み発表・世界の教育の流れを学ぶ）
- ☆ 9月 10日 ICTセミナーで発表（本研究内容を発表）
- ★ 9月 24日 先進的研究校視察（ICT・協働研究）
- ☆◇ 10月 7日 ICT公開授業、参観者にアンケート実施
- ◇ 10月 17日 児童・保護者に中間アンケート実施、インタビュー調査
- ☆ 11月 11日 国語授業づくり研究会
- ☆ 12月 19日 2学期の取り組み報告・国語授業づくり研究会
- ☆ 1月 16日 3学期の教材研究会
- ☆ 1月 25日 区教員研究発表会
- ☆◇ 1月 30日 ICT公開授業、研究の報告、参観者にアンケート実施
- ◇ 2月 1日 CRT検査（国語科の学力実態調査）
- ◇ 2月 6日 児童・保護者にアンケート実施、インタビュー調査  
協働研究者（本校・他校）にアンケート調査

☆公開授業・研究会実施 ★先進的研究校視察 ◇アンケート・インタビュー、学力調査

## 6 見込まれる成果 :

### ○教師の指導力向上

資質・能力と学習指導要領等の構造を整理するために、教科の本質に立ち返り、「なぜ学ぶのか」「どういった力が身につくのか」を学ぶ研究会を実施する。カリキュラムマネージメントと評価を一体化して整理することにより、授業改善につながる。トップレベルの指導者と出会うことにより、教育研究の質が向上する。大阪市や全国の仲間と協働した研究により研究の輪を広げる。

### ○目指す児童の姿

アクティブラーニングの視点を生かすことにより、学習意欲が向上し自ら学ぶ姿勢が見られる。汎用的能力を獲得し、社会で必要となるスキルを活用できる。問題を発見したら、粘り強く取り組み解決しようと協働的に学ぶ姿がある。資質・能力の育成を目指すことにより、結果的に学力が向上する。

### ○新学習指導要領の実施に向けた取り組み

検討段階で論点として上がった内容を整理し、実践研究することにより、新しい授業像を提案する。新学習指導要領で重視されている児童の姿、授業づくりについて先行的に研究することにより、本校の授業力向上のみならず、大阪市の授業力向上につながる。

## 7 成果の検証方法 :

### ○児童の学力向上・人間性の育成

CRT検査（国語科の学力実態調査）により、従来からの測定しやすい学力である知識・技能を実施し、平均点を上げる。児童の人間性については、アンケートやインタビュー調査により児童・保護者・教職員からの調査結果を整理し、肯定的回答の割合を上げる。三点測定（トライアンギュレーション）の手法を活用する。アンケート内容は、アクティブラーニングを成立させるために必要な児童像や授業者像などを整理して入れる。年度末には、効果のあった項目と実際の授業を発表できる。

### ○研究会の開催により、合計200名の参加をめざす

国語科の本質をとらえた授業づくりは、学力向上に不可欠である。そのため、研究会を開催し本校以外の教員とも研究を進め、研究の輪を広げる。協働研究者が増えることにより、教科の本質を深めた話し合いになる。参観した教員からアンケートで意見を出してもらうことにより、客觀性を保った研究となる。

### ○カリキュラム改革

カリキュラムマネージメントや評価について研究したことをまとめて、大阪市に広める。協働研究した授業をまとめることにより、実践と新学習指導要領でめざす姿をつなげた研究発表となる。

## 8 研究発表の日程・場所(予定)

- 日程：平成28年 6月27日 場所：本田小学校 公開授業・講師師範授業・講演会  
平成28年10月 7日 場所：本田小学校 公開授業・研究発表会  
平成29年 1月25日 場所：本田小学校 区教員研究発表会  
平成29年 1月30日 場所：本田小学校 公開授業・研究発表会

## 9 代表校園長のコメント

カリキュラム・イノベーションが世界中で起こっている。世界的な動向として、小学校では学問の知識を学ばせるだけでなく、「社会で学び続けるための資質・能力」を身に付けさせると考えが広まっている。一方で、こうした発想に基づくカリキュラムをどのように実現していくかについては、各学校で模索段階にある。本教諭は、以前より全国の先進的な国語教育研究に参加し、その成果を校内外に広めている。「社会で学び続けるための資質・能力」を育成する国語科の研究は大阪市の財産になると考える。本研究の研究助成をお願いする。